



中研レポート No.11 (年2回発行)



発行 自動車安全運転センター 安全運転中央研修所

特定業務運転者課程の紹介



運転適性検査では、反応動作、注意配分等の能力を測定し、自己の運転傾向を認識します。



エコドライブ研修では、エコドライブのポイント等について講習を受け、講習前後の燃料消費量等を測定し、エコドライブの効果を体験します。



危険予測・回避研修では、右折時における対向車の接近する速度や右折可能距離を推測することにより、事故を回避する方法を学びます。



スキッド走行の研修では、滑りやすい路面を人工的に作り出し、速度の出しすぎや、急ブレーキ等によって車の限界を超えた運転の危険性を、安全な環境下で体験します。

特定業務運転者課程では、電気・通信などの公益事業、運送業、警備業、医療・介護、保守管理業等の安全性・確実性・迅速性が強く要請される業務に従事する運転者に必要な知識技能について、各種実技研修や理論研修を行っています。

実技研修では、日常点検や基本走行などの基本的な研修のほか、道路環境の違いによるブレーキング、横滑りやスリップを体験するスキッド走行、ドライバーの能力の限界を体験する危険予測・回避などの研修を行います。また、運転適性検査により反応動作及び注意配分等の能力を検出し、運転傾向を認識していただきます。

同課程には、3日コース、2日コース、1日コースがあります。3日コース、2日コースでは、右直事故の検証、コメンタリードライビング[※]などを研修に取り入れ、より充実した研修を行います。さらに、3日コースでは、研修の際に研修前後の燃費やエコドライブを実践した場合のCO₂削減効果等を示した「エコドライブ講習診断書」を研修生全員に交付するなど、エコドライブにも重点を置いた研修を行っています。

※ コメンタリードライビング・・・道路環境や交通状況の変化を声に出して運転する訓練法です。「ぼんやり運転」や「うっかり運転」を防止し、運転に意識を集中させます。

夜間の特性「夜間走行」

夜間、交通事故を起こした人の中には「突然、飛び出してきたのでブレーキを踏んだが、間に合わなかった。」「ブレーキを踏んだが、思ったよりも車間距離が近すぎて間に合わなかった。」等と言う人がいます。また、統計資料からは、昼間に比べて夜間の方が死亡事故率が高いことが分かります。

なぜ、夜間の運転は危険性が高いのでしょうか。

夜間の運転は、視認性が低下したり、対向車の前照灯の影響で歩行者の発見が遅れたりするのはもちろん、特に深夜ともなれば、疲労が蓄積して注意力が鈍り、危険に対する感受性が低下するなど、ドライバーにとって大変不利な条件が重なり、重大事故につながりやすくなります。

こうした夜間走行の特性を理解して昼間走行との違いを体験してみると、知識はあっても、これが実際の運転行動に活かされていないことがよくわかります。刻々と変化する道路環境に適応した運転をするには、正確な情報をいち早く知り、判断、行動することが求められますが、その中で一番重要な認知すること、早く正確に観ることが夜間では十分にできない（見えていない、見間違い、錯覚等）ことを認識することが重要です。

【夜間走行特有の現象と問題点】

《色の違いによる視認性》

夜間は障害物（歩行者等）の色彩によって見え方が異なり、状況によっては見えなくなる場合もあることを認識して運転することが大切です。

白っぽい服（白や黄色等）を着ている人は早く発見でき、黒、茶、紺系統の服を着ている人は非常に見えにくく、発見が遅れて重大事故につながる危険性が高くなります。

また、夜間に事故を起こさないためには、走行中見えている物だけを頼りにした運転をするのではなく、歩行者の服装をはじめ、色別による見え方の違いをよく認識した上で運転することが大切です。



黒・茶系統の色は、ライトを上向きにしても発見できません。



横断歩道上の歩行者を確認できません。

《蒸発現象》

夜間、対向車とすれ違う際、自車と対向車の前照灯の光が交錯する部分にいる歩行者などは、ドライバーから見えなくなります。このような現象を「蒸発現象」といいます。

歩行者に対して30～50m離れた位置から前照灯を下向きで照射すると歩行者の服装が明るい色（白や黄色等）であっても、対向車の前照灯と交差する中心付近（道路中央付近）で蒸発現象が発生し、歩行者が見えなくなります。

仮に、反射ベルトを身に着けた歩行者であっても対向車の前照灯により、まったく見えなくなる場合もあります。このように道路の中央部分では、たとえ目立ちやすい服装でも発見が困難となります。

セーフティポイント



- ① 夜間の運転は、昼間に比べて死亡事故率が高く、非常に危険であることを認識して運転する。
- ② 夜間は、ドライバーがよく見ても確認できない、あるいは見えていても正確に見えていないことがあるということ等を理解して「見たもの・感じたこと」のみで判断しない。
- ③ 前照灯は周囲の迷惑にならない範囲で上向きに点灯し、情報をいち早く知るようにする。
- ④ 尾灯位置の高い車の後方を走行する場合は、異常接近しやすいので意識して車間距離を取る。

教官コーナー

久保田 邦夫 理論教官

事故を起こさないためのドライビングでは、まず、安全意識の醸成がポイントになります。そこに様々な知識、運転技術が備わって初めてリスクの少ない運転ができます。完璧な人間はいない、事故は注意しても起こる。起きたとしても被害を最小減に抑えたい、せめて運転操作に起因するような事故だけは避けたい。そんな思いを込め車両特性という観点から「してはいけないこと、しなければならないこと」を分かりやすく解説することをモットーに講義を行っています。



小松 智恵子 実技教官 (宮城県加美自動車学校から出向)

平成23年に実技教官として採用され、今年で3年目になります。

実技研修では、車両の限界や人間の限界を体験、理解してもらうことで、「安全な運転とは・・・」ということ、研修生の皆様に考えていただけるよう心がけています。『情熱、冷静、不撓不屈』をモットーに、研修生の皆様とのふれあいを大事に日々研修を行っています。



新設・改正課程の紹介

■ 「認知機能検査員課程」の新設、「新任運転適性指導員課程」等の改正について

○ 概要

安全運転中央研修所では、認知機能検査員資格が取得できる課程として、「新任運転適性指導員課程」、「運転適性講習指導員課程」、「高齢者講習指導員課程」を設けておりましたが、高齢化社会の進展に伴い、認知機能検査を受検する運転者の増加などにより、必要な認知機能検査員の増加が見込まれることから、認知機能検査員の養成の充実を図るため、関係する課程から認知機能検査員資格の取得に必要な科目を分離させ、それぞれ研修日数を1日短縮し、新たに「認知機能検査員課程（1日）」を新設しました。

○ 対象

自動車教習所等の指導員

○ 研修期間・料金

【新設課程】

・認知機能検査員課程 ～ 1日間・8,500円

【改正課程】

・新任運転適性指導員課程 ～ 11日間・254,000円

・運転適性講習指導員課程 ～ 7日間・171,000円

・高齢者講習指導員課程（四輪・二輪） ～ 3日間・78,500円

・高齢者講習指導員課程（四輪） ～ 2日間・51,000円

○ 運用開始

平成25年4月1日から

研修車両の紹介

安全運転中央研修所では、研修課程に応じた多種多様な車両を取り揃え、研修を行っております。
今回は、実際に研修で使用する主な車両を紹介いたします。

今後とも、豊富なコースと車両、高度な知識・技術を持つ講師陣による実践的な研修を実施してまいりますので、みなさまの研修受講をお待ちしております。



一般用の研修車両です。特定業務運転者課程、青少年運転者課程等で使用します。



教習用の研修車両です。教習課程、講習課程等で使用します。



大型トラックの研修車両です。トラック課程、教習課程等で使用します。



大型バスの研修車両です。本年度、新規に導入しました。



ワンボックスタイプの研修車両です。消防・救急課程、一般緊急課程等で使用します。



トライアル車両です。二輪車課程で使用します。

安全運転をつくろう。
 自動車安全運転センター

安全運転中央研修所

〒312-0005 茨城県ひたちなか市新光町605-16
Tel. 029-265-9560 (研修部) Fax. 029-265-9552